

人が憩う“昭和の街”守りたい

東中野

立ち退き迫られるムーンロード



「魂触れ合う」「荷風の世界」

JR東中野駅東北口を降りるとすぐ、小さな店30数軒が軒を連ねる「昭和の街」ムーンロード（東中野駅前飲食店会）があります。この土地にマンション建設計画が持ち上がったのは10年前。商店会長でジャンソンを聴かせる店「マ・ヤン」店主の東田敏子



ムーンロード秋まつりで歌うゴスペルグループCOCORO*CO（ココロコ）のメンバー＝10月24日、中野区

台形状の土地に2本の路地が交差して、スナックや銘酒場、バーなど小さな店が肩を寄せ合うように立っている。この土地は「ムーンロード」。この小さな土地で、マンション建設のための土地取得が始まった。数年、しかし業者がこれまでに取得できた土地は未だら割に足りません。土地を購入した業者に立ち退きを求め訴えられている。訪れると、店はいつも満員で、マ・ヤン客の相手に忙しそう。店には菊地夫さんは「家賃が安く立地条件がいいので、みんな商売を続けたいんです」と言いいます。

さんらが昨年4月、業者に提訴されたが、古き良き街を守ろうとしたかっ。店の客や地域住民らは「昭和の街」ムーンロードを守る会「前飲食店会」があります。この土地にマンション建設計画が持ち上がったのは10年前。商店会長でジャンソンを聴かせる店「マ・ヤン」店主の東田敏子

（内田恵子）

菊地さんの経営するマ・ヤン店は、ムーンロードの中央にある建物の地下を利用して、昨年暮れから正月にかけて何回か並ぶ、これまでの人生を物語るような感じです。「老骨に鞭打ってでもなんとか商売を続けられるようにがんばりたい」。菊

「マ・ヤン」は絵描きの長新太さんが児童文学作家の太田大八さんやイラストレーターの多田ヒロシさんらと訪れ、また作家の西村寿行さんや梓林太郎さん、小林秀美画伯などの著名人が足を向け、音楽や会話を楽しんだ店としても知られ

みんなが店の仲間 「マ・ヤン」は店主の東田さんが42年も続けてきた大切な店です。俳優養成の専門学校「舞台芸術学院」（豊島区）出身のジャンソン歌手でもある東田さん、いい音楽を安く楽しめる店にしたいという思いを貫いてきた。日本でヨーロッパを巡ったシンガーのウイリー沖山さんは「マ・ヤン」さんは有名な老舗で表にいろいろな方が通って、お客様にも音楽に通じている人が多い」と評します。

「マ・ヤン」は絵描きの長新太さんが児童文学作家の太田大八さんやイラストレーターの多田ヒロシさんらと訪れ、また作家の西村寿行さんや梓林太郎さん、小林秀美画伯などの著名人が足を向け、音楽や会話を楽しんだ店としても知られ

みんなが店の仲間 「マ・ヤン」は店主の東田さんが42年も続けてきた大切な店です。俳優養成の専門学校「舞台芸術学院」（豊島区）出身のジャンソン歌手でもある東田さん、いい音楽を安く楽しめる店にしたいという思いを貫いてきた。日本でヨーロッパを巡ったシンガーのウイリー沖山さんは「マ・ヤン」さんは有名な老舗で表にいろいろな方が通って、お客様にも音楽に通じている人が多い」と評します。

昭和の余熱を発していた

作家 志茂田景樹



志茂田景樹さん

毎夜のように銀座で遊んでいた時代があった。飲み足りなければ六本木や新宿に繰り出し、ときに戦後の昭和がまだ尾を引いて色濃く濃み、その気配

が色めき立つように迎えてくれる街の店へ足を向けた。それが東中野の「マ・ヤン」だった。流行作家もいたし、小説家の卵もいた。深夜にやっとな仕事を終え消耗して駆けつけた体の多忙な挿絵画家の横には名もない画家がウイスキーをあおっていた。有名か無名か解らないロックシンガーがビートルズ論をまくらして話していた。あの混沌は何だったか。きっと「マ・ヤン」は昭和の余熱が



マ・ヤンの店内で店の歴史を振り返る東田さん



経営するマ・ヤン店主の東田敏子さんと菊地さん